

2026

大阪教育大学大学院
教育学研究科



新しい時代の教育改革を リードできる人材養成へ



教育学研究科主任
出相 泰裕

大阪教育大学は、明治7年に設置された教員伝習所を起源とし、150年以上の歴史と伝統を有するとともに我が国有数の規模を誇る教育系大学です。昭和43年に開設された従来の大学院教育学研究科(修士課程)は、4つの専攻(国際文化専攻、総合基礎科学専攻、芸術文化専攻、健康科学専攻(夜間))のそれぞれの専門分野において、理論と応用の研究能力と、教育実践の場における教育研究の推進者としての能力を養成することを目的にして、教育界を含む様々な分野で活躍できる人材養成を行ってきました。

しかしながら21世紀に入り、ICT化、AI革命やグローバル化、さらには人生100年時代など社会変動の加速化に伴い、社会や地域では様々な課題、支援ニーズが顕在化してきており、教育分野もそういった中で新たな役割を求められています。

このような新しい時代に求められる教育に対応するため、本学は令和3年4月に、大学院教育学研究科を大幅に改組いたしました。この教育学研究科には、これまで培ってきた高度な専門性・研究能力の育成に加えて、地域・社会及び学校への支援において要求される、教育・学習支援の課題分析力・実践力を育成する「高度教育支援開発専攻」を設けています。この専攻の下に、教育領域に強い公認心理師を養成する「心理・教育支援コース」、留学生を受け入れてグローバルなフィールドで他者と協働できる人材養成を目指す「国際協働教育コース」、主として社会人を対象として、各人の持つ専門性、知識・技能を他者の知見と組み合わせて、様々な課題の解決に向けた教育的アプローチを実施・運営する能力を養成する「教育ファシリテーションコース」の3つのコースを設けています。

私たちは、新しい時代の多様なニーズに対応し、社会や地域に広く貢献するため、幅広い視野や高い研究能力・技能を獲得し、これからの自らの人生を前向きに切り拓いていこうとする方々の入学をお待ちしております。

令和8年度 大学院教育学研究科の3つのポリシー

卒業認定・学位授与の方針 ■ディプロマ・ポリシー

大学院教育学研究科は、教育・学習支援の実践力と課題分析力を備え、自らが有する専門性と異分野の知見を組み合わせて学校・家庭・地域の教育に最適化できる先導的手法を深く探求し、教育現場の課題解決・価値創造の一翼を担う高度な人材を養成することを目標としています。

この目標に基づき、所定の単位を修得し、教育現場における課題の「発見・理解力」と「分析力」、教育課題解決の企画力、特定の分野における深化した専門的知識・技能、人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力を有する者で、学位論文審査及び最終試験に合格した者に修士(教育学)の学位を授与します。

教育課程編成・実施の方針 ■カリキュラム・ポリシー

大学院教育学研究科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針を踏まえ、「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」、「教育課題解決の企画力」、「特定の分野における深化した各領域の知識・技能」及び「人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力」を統合的に身に付けることを目的として、次のように体系的に編成し、実施するものとします。

- 1 「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」を有する専門的人材として備えるべき基盤的素養を修得することを目的として「専攻共通科目」を設定します。
- 2 自らの思考の軸となる専門分野の「教育現場における課題の『発見・理解力』と『分析力』」を修得し、これを基盤に「教育課題解決の企画力」までつなげることができる力量を育成することを目的として「コース共通科目」を設定します。
- 3 「特定の分野における深化した各領域の知識・技能」を育成するために、自らの思考の軸となる専門領域の知識・技能を基盤として、理論と実践を往還して分析省察するための技能を修得することを目的とし「コース・領域専門科目」を設定します。

- 4 「教育課題解決の企画力」を基盤とし、「人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力」を育成することを目的として、心理・教育支援コース及び国際協働教育コースにおいては「フィールド研究科目」、教育ファシリテーションコースにおいては「プロジェクトベース科目」を設定します。
- 5 1～4を通じて、自らの教育・学習支援実践における課題を設定し、専攻共通科目、コース共通科目、コース・領域専門科目、フィールド研究科目、プロジェクトベース科目での学びと関連させながら学術的に考察し、修士論文に結実させることを目的として「課題研究科目」を設定します。

1～5の実施については、主体的・対話的で深い学びを提供します。具体的には、講義に加えて、グループワーク、発表、討論等の活動を取り入れます。
1～4の成績評価については、試験・レポートのほか、グループワーク、発表、討論等の活動も重視します。
5の成績評価については、調査・計画・実施・評価及び改善のサイクルを繰り返すこと、それらの過程における同僚等とのコミュニケーションや協働を重視します。

入学者受入れの方針 ■アドミッション・ポリシー

1. 求める学生像

卒業認定・学位授与の方針に定める資質・能力を育成するために編成された教育課程を履修する学生として次に掲げる人材を広く求めます。

高度教育支援開発専攻

- 学校や地域が抱える教育課題の解決に強い関心を有している人
- 特定分野において専門性や優れた実務・実践経験を有し、これを活用して教育・学習支援に参画する意欲を有している人
- 教育現場の課題について実践的研究を行うことで、学校改革に向けて先導的・中核的な役割を担う意欲を有している人

心理・教育支援コース

- 1 学士課程において公認心理師国家試験受験資格に必要なすべての科目を修めており、修士課程において必要とされる科目を修める強い意志のある人
- 2 心理支援に関する高度な知識とスキルを身につけ、社会に貢献しようとする強い意欲を有している人
- 3 スクールカウンセラーや教育相談員等の専門職の立場から教育を支援する意欲を有している人

国際協働教育コース

- 1 学士課程で学んだ自身の専門研究分野に関して基礎的な知識と強い関心を有している人
- 2 各国・地域の日本型教育システムに関する実践研究に取り組み、その成果を教育現場に反映させ、教育課題の解決の一翼を担う意欲を有している人
- 3 日本語教育支援に関する実践研究に取り組み、教育を通して多文化共生社会の実現と持続に貢献しようとする意欲を有している人
- 4 日本型教育システムや日本語教育支援についての研究成果を国際的に発信するためのコミュニケーション能力・語学力を有している人

教育ファシリテーションコース

- 1 学校や地域が抱える教育課題の解決に強い関心を有している人
- 2 以下のいずれかの専門性や優れた実務・実践経験を有し、これを活用して新時代の学校改革や教育現場の課題解決の一翼を担う意欲を有している人
 - AI・ICT等の先端技術、または、教育行政等に関する領域
 - 社会教育や福祉、または、美術や音楽などの芸術活動に関する領域
 - 医療や保健、スポーツなどの健康・安全に関する領域

2. 入学者選抜の基本方針

大学院教育学研究科が求める学生を受け入れるために、次の大学院入学者選抜を実施します。

一般選抜

本選抜では、外国語科目と専門科目によって、大学院で学ぶために必要な外国語能力、読解力、思考力、文章表現力、専門的知識を有しているかを評価します(教育ファシリテーションコースでは、専門科目によって、大学院で学ぶために必要な読解力、思考力、文章表現力、専門的知識・技能を有しているかを評価します)。また、口述試験、研究計画書及び成績証明書によって、専門分野の研究を遂行するために必要な専門的知識、大学院で学ぶ動機、意欲、主体性を有しているかを評価します。なお、研究計画書は、自らが身に付けるべき資質・能力を明確にし、教育全体の課題と関連付けた具体的な研究計画を特に評価します。

外国人留学生等選抜

国際協働教育コースでは、外国人留学生を広く受け入れるために、外国人留学生等選抜を実施します。本選抜では、専門科目によって、大学院で学ぶために必要な日本語能力、読解力、思考力、文章表現力、専門的知識を有しているかを評価します。また、口述試験、研究計画書及び成績証明書によって、専門分野の研究を遂行するために必要な日本語能力、専門的知識、大学院で学ぶ動機、意欲、主体性を有しているかを評価します。なお、研究計画書は、自らが身に付けるべき資質・能力を明確にし、教育全体の課題と関連付けた具体的な研究計画を特に評価します。

3. 入学前に学習しておくことが期待される内容

- | | |
|--------|---|
| 学部卒学生等 | <ul style="list-style-type: none">▪ 大学卒業レベルと同等の基礎学力▪ 専門分野に関する基本的な知識・技能 |
|--------|---|

- | | |
|------|---|
| 社会人等 | <ul style="list-style-type: none">▪ 教育現場や地域が抱える教育課題への強い関心と理解▪ 専門分野に関する知識・技能・実践経験 |
|------|---|

- | | |
|---------|---|
| 外国人留学生等 | <ul style="list-style-type: none">▪ 大学卒業レベルと同等の基礎学力▪ 母国における教育課題の理解▪ 専門分野を学ぶための日本語能力 |
|---------|---|

概要・カリキュラム

本研究科は、全ての院生が教育・学習支援の実践力と課題分析力を身に付けられるよう教育課程を編成し、教員以外の立場から教育現場の課題解決・価値創造の一翼を担う高度な人材を養成します。

専攻	コース	領域	対象者 …… 主な修学キャンパス	募集人員(目安)
高度教育支援開発専攻	心理・教育支援コース		学部卒学生等 柏原キャンパス (昼間開講)	10人
	国際協働教育コース	日本型教育システム開発領域	外国人留学生等及び 学部卒学生等 柏原キャンパス (昼間開講)	20人
		日本語教育支援高度化領域		
	教育ファシリテーションコース	教育イノベーション開発領域	社会人等及び 学部卒学生等 天王寺キャンパス (夜間・土曜開講)	20人
		地域教育・芸術支援人材高度化領域		
		健康・安全教育高度化領域		

1時限 ■ 8:50～10:20	5時限 ■ 16:25～17:55	授業の時間帯は、柏原キャンパス開講コースは1～5時限、天王寺キャンパス開講コースは6～7時限が原則です。 (ただし、土曜日開講授業・集中講義についてはこの限りではありません。)
2時限 ■ 10:35～12:05	6時限 ■ 18:00～19:30	
3時限 ■ 12:55～14:25	7時限 ■ 19:40～21:10	
4時限 ■ 14:40～16:10		

特色

1 「教育・学習支援の実践力」と「課題分析力」の基盤的な力を身に付けます。

超スマート社会の到来に伴い、教育を取り巻く環境も大きく変わる中、ICT、教育データ等の先端技術や教育・学習の実践的手法の両方を基盤的な力として身に付けるための授業を必修科目として開講します。

2 特定の領域での高度な専門性を身に付けます。

特定の領域における高度な専門的知識・技能を身に付けることに加え、これを活用して教育・学習支援を深く探究するための実践力・研究力を修得するための学びを展開します。

3 実践的な教育研究手法を身に付けます。

大学院修了後も様々な課題に直面した際に、主体的に分析、考察、解決ができるよう、調査・分析手法、論文作成手法など、汎用的な研究能力を身に付けます。

4 多職種協働による課題探究型研究・教育を展開します。

教育現場、企業、行政、地域から、多様なバックグラウンドを有する社会人が一堂に集まり、多職種協働による教育現場の課題解決に資する研究・教育を展開するため、「フィールド研究科目・プロジェクトベース科目」を開講します。

学位プログラムの到達目標（ディプロマ・ポリシー）

		心理・教育支援コース	国際協働教育コース	教育ファシリテーションコース
DP1	教育現場における課題の「発見・理解力」と「分析力」	- グローバル化・多様化・複雑化した現代社会において、保健医療・福祉・教育などの様々な場面において、顕在化した、あるいは潜在的な心理学的支援の必要な課題を発見し、その本質を理解できる。 - それらの課題について、自らの専門分野と関連づけて高度に分析できる能力を有している。	- グローバル化・多様化・複雑化した現代社会において、学校教育及び日本語教育を取り巻く様々な場面において、顕在化した、あるいは潜在的な理系分野や日本語教育支援分野の教育課題を発見し、その本質を理解できる。 - それらの教育課題について、自らの専門分野と関連づけて高度に分析できる能力を有している。	- グローバル化・多様化・複雑化した現代社会において、学校及びそれを取り巻く様々な場面において、顕在化した、あるいは潜在的な教育課題を発見し、その本質を理解できる。 - それらの教育課題について、生涯教育学の知見と自らの専門分野や実践経験を関連づけて高度に分析できる能力を有している。
DP2	教育課題解決の企画力	高度な専門的知識・能力を活用し、課題解決に向けた心理学的手法、道筋を企画し、積極的に行動することができる。	高度な専門的知識・能力を活用し、理系分野や日本語教育支援分野の教育課題解決に向けた手法、道筋を企画し、積極的に行動することができる。	教育的アプローチについて理解を深め、自らの高度な専門的知識・能力を活用して、教育課題解決に向けた事業や手法を開発し、積極的に展開していくことができる。
DP3	特定の分野における深化した専門的知識・技能	- 所属するコースの高度な専門的な知識・能力を身に付けている。 - それらの高度な専門的知識・技能をさらに自ら深化させていく能力を有し、理論面・実践面から心理学的課題の解決に向けた深い省察ができる。	- 所属するコース・領域の高度な専門的な知識・能力を身に付けている。 - それらの高度な専門的知識・技能をさらに自ら深化させていく能力を有し、理論面・実践面から理系分野や日本語教育支援分野の教育課題の解決に向けた深い省察ができる。	- 所属するコース・領域の高度な専門的な知識・能力を身に付けている。 - それらの高度な専門的知識・技能をさらに自ら深化させていく能力を有し、理論面・実践面から教育課題の解決に向けた深い省察ができる。
DP4	人や組織間をつなぐ高度なコーディネート力	- 心理学的支援の必要な課題に対し、異なる領域・分野の人々や、社会人・学校教員・地域社会のメンバーなどと協働して問題解決ができる。 - 学校や社会の様々な組織をコーディネートし、分野・組織の異なる人々の協働をリードできる。	- 理系分野や日本語教育支援分野の教育課題に対し、異なる国や文化、他の領域・分野の人々や、社会人・学校教員などと協働して問題解決ができる。 - 各国・地域、学校や社会の様々な組織をコーディネートし、分野・組織の異なる人々の協働をリードできる。	- 地域の様々な教育課題の解決に向けて、学校教員と関係する組織との間でチームを組織化することができる。 - 学校や地域の様々な組織との協働チームの運営をコーディネートし、課題解決に向けての協働事業をリードできる。

修了要件単位数

修了要件 大学院研究科に2年以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、学位論文審査及び最終試験に合格しなければなりません。 ※公認心理師受験資格の取得に必要な単位数は43単位です。

心理・教育支援コース		国際協働教育コース		教育ファシリテーションコース	
専攻共通科目	6	専攻共通科目	6	専攻共通科目	6
コース専門科目	15	コース共通科目	4	コース共通科目	4
自由選択科目	2	コース・領域専門科目	14	コース・領域専門科目	10
フィールド研究科目	3	自由選択科目	2	自由選択科目	2
課題研究科目	4	フィールド研究科目	4	プロジェクトベース科目	4
計	30	課題研究科目	4	課題研究科目	4
		計	34	計	30

本専攻におけるカリキュラムは次の科目から構成されています。

専攻共通科目	教育現場の高度化を担うために必要となる基盤的な力を身に付けるため、専攻共通の必修科目として設けています。
コース共通科目	各コースにおいて共通に開設された科目を、必修科目・選択必修科目として履修します。
コース・領域専門科目	特定の領域での高度な専門性に加え、これを活用して教育・学習支援を深く探究できる知識や技能を身に付けるため、選択必修科目・選択科目として履修します。
自由選択科目	選択するコース・領域の専門科目のうち修了要件として設定の単位数を超えて修得した単位及び他コース開設科目の単位を修得した場合に、自由選択科目の単位となります。
フィールド研究科目	現場での実習を積み重ね、直面する課題研究を理解し解決できる実践力を身に付ける科目として履修します。
プロジェクトベース科目	多様なバックグラウンドを有する人材が一堂に集まり、カンファレンス、グループワーク等を通じて、実際の教育現場に即した課題探究型の学びを展開します。 また、これらの学びの成果を教育現場への実践につなげることを目的としています。
課題研究科目	上記科目群における学びと関連させながら学術的に考察し、修士論文としてまとめることを目的としています。

取得できる学位 修士(教育学) ※本課程修了により、専修免許状を取得することはできません。

心理・教育支援コース

養成する人材像

高度な心理学の知識と支援・研究スキルを身につけ、社会に貢献する人材を養成します。

教育大学としての強みをいかし、教育分野における心理支援に精通した人材を養成します。

柏原キャンパス
昼間開講

募集人員(目安)：10人

コース代表教員からのメッセージ



石橋 正浩 教授

2017年の公認心理師法施行をうけ、教員養成だけでなく教員を支援する人材の養成も本学の使命であるとの考えのもと、学部では2019年度入学生から、そして大学院では2021年度入学生から、公認心理師国家資格取得に対応するカリキュラムを提供しています。

学校現場では教員の業務過多に加えて、対応する問題も多様かつ深刻なものが増えています。教員、児童生徒、保護者、各種専門職、そして地域社会と連携して問題の解決にあたろうという「チームとしての学校」の考え方は教育現場での支援の基本となっています。保健医療や福祉などのさまざまな分野においても同様です。多職種連携の重要性を理解し、心理学の体系的な知識を基盤とした支援を実践することのできる専門家を養成したいと考えています。

研究と実践の双方に意欲と熱意があり、なおかつ冷静な観察眼と分析力のある方をお待ちしています。ともに頑張りましょう。

- 特 徴
- 国家資格である公認心理師※1の取得を支援します。
 - 教育大学としての特徴をいかし、発達や教育に関する研究と、それらに基づいた支援を実践的に学ぶことを通して、発達の多様性を理解しさまざまな形で協働を実践することのできる心理支援の専門家を育成します。

※1 所定の単位を取得して本学大学院を修了することで、受験資格を得ることができます。ただし、大学院に入学する前に4年制大学において法令で定められた科目をすべて履修していることが条件となります。条件を満たすかどうかは、ご自身の所属又は卒業大学にご確認ください。

- 主な開講科目
- 心理支援に関する理論と実践
 - 心理実践実習
 - 公認心理師と教師の協働的援助

- 修了後の想定輩出先
- スクールカウンセラーなど教育機関に勤務する心理職、子どもや家族に関わる施設等に勤務する心理職、その他公認心理師として医療・福祉・産業・司法の分野における心理支援に携わる専門職など

- 取得できる資格
- **【国家資格】公認心理師(受験資格)**
心理学の専門的知識と技術をもって、心理に関する支援を必要とする人の心理状態の観察と分析、その心理に関する相談、助言、指導その他の援助を行うことなどを業とする専門職です。

【認定資格】臨床発達心理士※2

臨床発達心理士とは、発達の臨床に携わる幅広い専門家に開かれた資格です。人の発達・成長・加齢に寄り添い、必要とされる援助を提供します。発達心理学をベースにして「発達の観点」を持つところが特徴です。

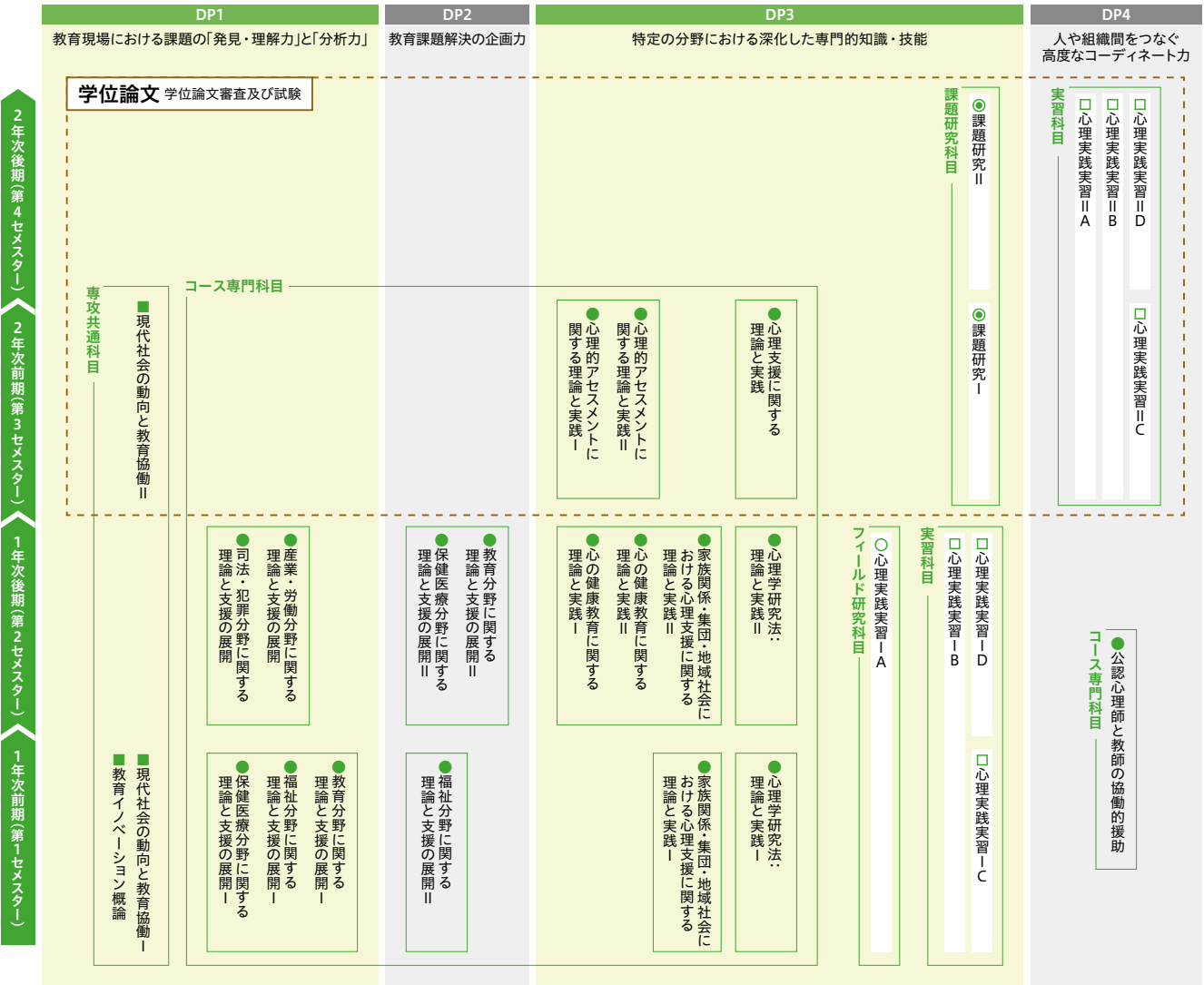
【認定資格】学校心理士※2

学校生活におけるさまざまな問題について、アセスメント・コンサルテーション・カウンセリングなどを通して、子ども自身、子どもを取り巻く保護者や教師、学校に対し、「学校心理学」の専門的知識と技能をもって心理教育的援助サービスを行うことのできる方に対して、一般社団法人学校心理士認定運営機構が認定する資格です。

※2 公認心理師資格を取得し、所定の講習会を受講することで申請資格が得られます。



令和7年度入学者用カリキュラムツリー | 学位プログラムの到達目標(ディプロマ・ポリシー) |



※令和8年度入学者については変更される場合があります。

専任教員・研究分野 (令和7年5月1日現在)

- 石橋 正浩 ■ 臨床心理学、発達人間学
- 寺坂 明子 ■ 臨床心理学、学校心理学
- 岩切 昌宏 ■ 精神神経科学
- 山口 正寛 ■ 臨床心理学、発達心理学



心理・教育支援コース



学部卒院生

内海 真歩

2年次

入学を決めたきっかけ

将来、子どもに関わる場所で働きたいという思いがあり、教育分野を中心に福祉分野や医療分野について学ぶことのできる本コースへの進学を決めました。また、2年間という短い期間を有意義に活用できるよう慣れ親しんだ環境で学びを深めたいという気持ちがありました。

入試対策

研究計画書は、なるべく早く着手することをお勧めします。添削は、大学院に進学された先輩や同期にお願いしました。専門科目は、用語のインプットと、用語を200字程度の文章で説明するアウトプットを行いました。英語は、心理英単語の暗記と長文を繰り返し解くことに時間をかけました。

入学して良かったこと

困ったことがあると先生や先輩、同期にすぐに相談・質問できる環境にあり、安心して授業や研究、実習に取り組むことができます。専攻共通科目では、留学生や社会人経験のある学生とグループワークをする機会があります。様々な視点の意見を聞くことができるのは、本大学院ならではの醍醐味です。

入学前に学んでおいて入学後に役に立ったこと

論文や学会を通して自身の興味のあることをもっと探しておくべきだったと思います。入学してすぐに修士論文について考え始める必要があります。入学する前に自分の興味や関心のある分野をいくつかピックアップすることで入学後の研究計画がスムーズに進むと思います。

受験生へのメッセージ

毎日の積み重ねが着実に力になると思います。

1 年次前期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限				家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅰ		
2 限		保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅰ			心理学研究法：理論と実践Ⅰ	
3 限		福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅰ		教育分野に関する理論と支援の展開Ⅰ		
4 限		福祉分野に関する理論と支援の展開Ⅱ			心理実践実習ⅠC	現代社会の動向と教育協働Ⅰ
5 限						
6 限			教育イノベーション概論			

1 年次後期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限				家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践Ⅱ		
2 限		保健医療分野に関する理論と支援の展開Ⅱ		教育分野に関する理論と支援の展開Ⅱ	心理学研究法：理論と実践Ⅱ	
3 限				心の健康教育に関する理論と実践Ⅰ		
4 限					心理実践実習ⅠD	
5 限						
6 限						

1 年次 集中講義	心理実践実習ⅠA・ⅠB、産業・労働分野に関する理論と支援の展開、公認心理師と教師の協働的援助
-----------	--

2 年次前期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限						
3 限				心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅰ		現代社会の動向と教育協働Ⅱ
4 限				心理的アセスメントに関する理論と実践Ⅱ	心理実践実習ⅡC	
5 限					心理支援に関する理論と実践	
6 限						

2 年次後期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限						
3 限						
4 限					心理実践実習ⅡD	
5 限						
6 限						

2 年次 集中講義	心の健康教育に関する理論と実践Ⅱ、心理実践実習ⅡA・ⅡB、司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開
-----------	--

国際協働教育コース

養成する人材像

主として、留学生を受け入れ、国境や異文化を越えてグローバルなフィールドで他者と協働しながら活躍できる教育・学習支援人材を養成します。

「日本型教育システム開発領域」と「日本語教育支援高度化領域」の2つの領域を設けます。

コース共通科目として「JSLカリキュラムの理論と実践」、「国際比較文化論」等を開講します。

柏原キャンパス
昼間開講

募集人員(目安)：20人

コース代表教員からの
メッセージ

石橋 紀俊 教授



様々なルーツをもち価値観を異にする人々が国や地域の隔たりを越えてボーダーレスに協働できる社会、さらには一人も取り残されることなくすべての人が尊重され、努力したことが平等に報われる社会を実現するために教育が重要であることは言うまでもありません。また、AIなどのテクノロジーの劇的な進化を伴いながら到来する未来の社会のなかで、私たち一人ひとりが人間らしく生きるために必要なのも教育です。

国際協働教育コースは、理系教育と日本語教育という分野から、来るべき未来にアプローチしようとするコースです。このコースでは、日本型教育システム以外で日本語を外国語として学んだ留学生と、日本型教育システムで学び日本語を母語とする学部卒の院生とが協働して学びます。その学びを通じて、ルーツや価値観が異なるからこそ相互に理解を深め、互いに尊重することのできる寛容で柔軟な思考力と、今後ますますグローバル化する国際社会で活躍しうる実践力を身につけます。

日本型教育システム開発領域

理系科目を中心に日本型教育の特性を理解し、新たな教育モデルを創造し実践できる人材を養成します。

特 徴

- 日本型教育と各国・地域の教育を比較して、新たな教育モデルを創造し実践できる資質・能力を育成します。
- 理系科目を中心とした高度な教育スキルを身に付けます。
- 日本型教育システムを国際的な視野から深く理解する力を身に付けます。

主な
開講科目

- 日本型教育システムにおけるICT活用の方法
- 日本型教育システムの諸相
- 日本型教育システム開発実践演習

修了後の
想定
輩出先

- 教育に関する国際機関、教育行政機関、日本への留学をめざす児童生徒を育てる教育機関、外国にルーツのある児童生徒が在籍する教育機関、理系の教材に関わる企業など



日本語教育支援高度化領域

国内外の日本語教育に必要な専門的知識と実践的教育力を養成します。

特 徴

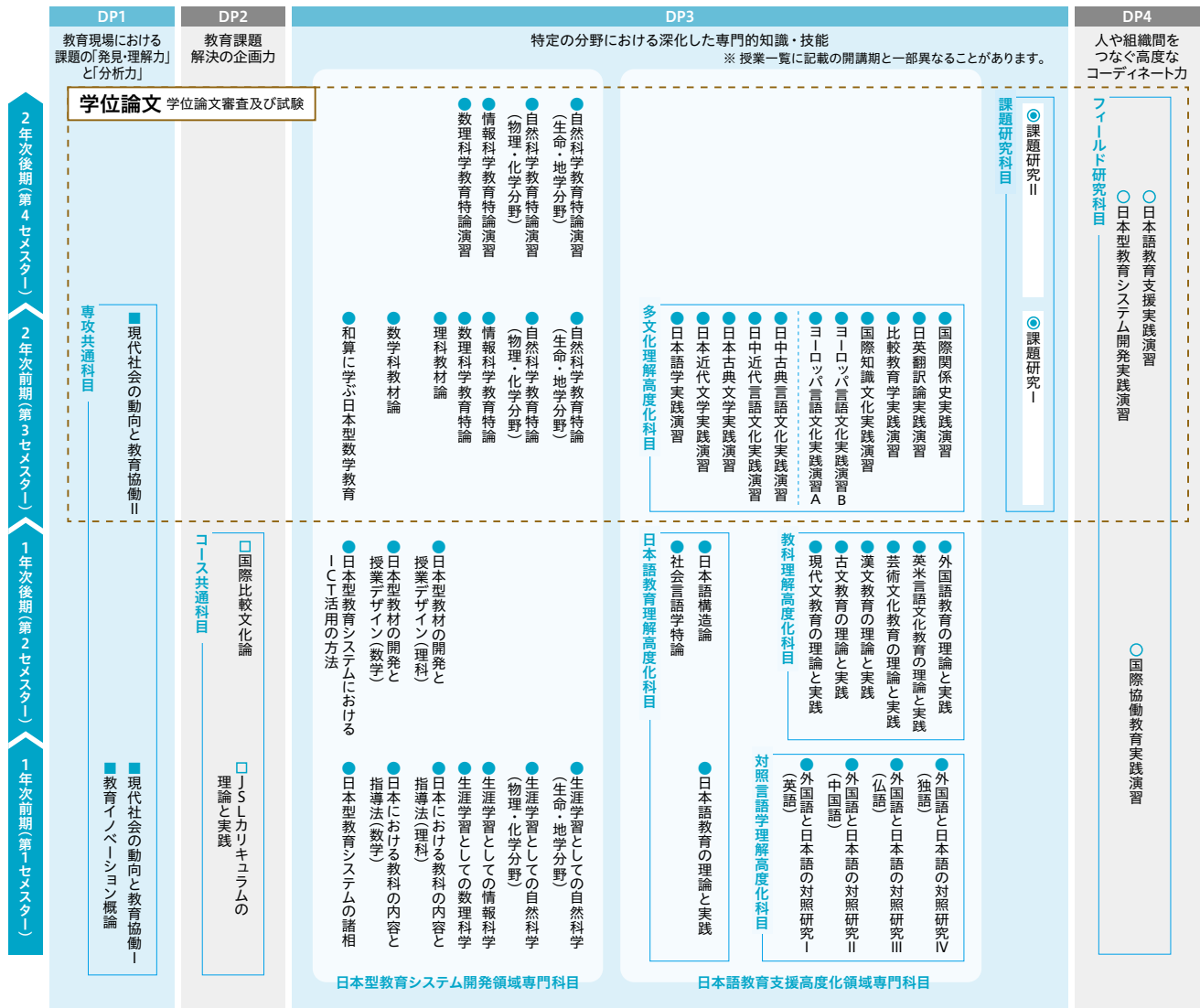
- 外国語として日本語を教えるために必要な日本語・日本文化に対する専門的知識と実践的な教育方法を学びます。
- 母語・母文化と日本語・日本文化を比較し分析できる力を身に付け、国内外の日本語教育の現場に対応可能な実践力を育成します。
- 日本語を教える高度なスキル、教育方法や教材開発力を身に付けます。

主な
開講科目

- 日本語教育の理論と実践
- 社会言語学特論
- 外国語と日本語の対照研究
- 日本語教育支援実践演習

修了後の
想定
輩出先

- 日本語教育機関、日本語教師養成機関、教育に関わる国際教育機関、教育行政機関・学校現場、日本語教育教材に関わる企業など



※令和8年度入学者については変更される場合があります。

■専攻共通科目 □コース共通科目 ●コース専門科目 ○フィールド研究科目 ◎課題研究科目

専任教員・研究分野 (令和7年5月1日現在) ※令和8年3月末までに退職予定

日本型教育システム開発領域

乾 陽子 ■生態・環境
尾崎 拓郎 ■情報教育学、教育学
川越 毅 ■ナノ構造科学、薄膜・表面界面物性、物性Ⅱ
喜綿 洋人 ■統計力学、機械学習
串田 一雅 ■応用物性・結晶工学、科学教育
久保埜 公二 ■分析化学、機能物性化学、無機化学
小林 元樹 ■環境生命科学
高見 享佑 ■ICT 教育・データサイエンス
谷 敬太 ■有機化学、機能物質化学 ※
CHEN LI ■教育情報工学
仲矢 史雄 ■サイエンスコミュニケーション・動物生理学
西川 泰弘 ■地球環境科学

日本語教育支援高度化領域

赤木 登代 ■ドイツ語圏の文学・文化史、ドイツ女性史
石橋 紀俊 ■日本近代文学、日本現代文学
井上 直子 ■フランス文学、フランス思想
小野 恭靖 ■日本古典文学、日本歌謡史・芸能史・演劇史 ※
亀井 一 ■独文学
櫛引 祐希子 ■日本語学、日本語教育学
佐藤 一好 ■漢文学 ※

納庄 聡 ■情報教育学、教育方法学
平木 彰 ■代数的組合せ論
広谷 博史 ■環境農学
藤田 真依 ■実解析
堀 一繁 ■有機化学、機能物性化学
堀 真子 ■地球宇宙化学
町頭 義朗 ■幾何学
望月 久稔 ■知能情報学、情報学基礎理論
守本 晃 ■ウェブレット解析、ウェブレットを用いた信号処理
山本 良太 ■教育工学
若杉 祥太 ■情報教育学、教育学、教育方法学

辻本 桜子 ■日本語教育・留学生教育
中野 知洋 ■各国文学・文学論
中山 あおい ■比較教育学、国際教育
野瀬 由季子 ■日本語教育学
Brown Robert Sanborn ■英語学
米澤 千昌 ■日本語教育学

国際協働教育コース

日本型教育システム開発領域



学部卒院生

林 勇飛

2年次

入学を決めたきっかけ

もともと就職を考えていましたが、自分が社会人になる際に何が自分に合って強味なのかを考えていると自信が持てなくなり、将来を不安視していたところに今所属している研究室の教授と相談の結果大学院の2年間を利用し自分にしかないものを見つけようと思いました。

入試対策

入試科目は英語、物理、化学でした。英語は長文がメインとなっており紙の辞書を持ち込んでもよかったので、単語力より文章を正確に読み文章を正確に伝える力が必要と思いました。またわからない単語を辞書を使用し調べながら進めるので、辞書に慣れていないと時間を浪費してしまうと思います。物理、化学は学部生の時に学習していた内容の復習を行いました。

入学して良かったこと

学部生の時には学べなかった内容が多く、実践で体験することも多く存在しました。学校で学ぶ学問的な学びと実践で学ぶ内容を応用すると、社会人に出た時にきっと役に立つと思いました。また研究発表など人の前で話すことが苦手だったので、その機会を多くいただき、自分が何をするべきかを考える時間を多くもらえました。

入学前に学んでおいて入学後に役に立ったこと

授業の中に生成AIやICTの内容を取り入れている授業があり、普段使っている使い方では自分が正確なものではないことにも気づかされました。その過程において、今までは最後にできたものが全ての評価基準と思っていましたが、実際はその過程でどのように考え次にどのように動くべきかを大事なかを学びました。

受験生へのメッセージ

自分のベストを出し最後まで頑張ってください。

1 年次前期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限		JSL カリキュラムの 理論と実践				
3 限	生涯学習 としての 数理情報		ゼミ		生涯学習としての 自然科学 (物理・化学)	
4 限	生涯学習 としての 情報科学			TA		現代社会の 動向と 教育協働Ⅰ
5 限	生涯学習としての 自然科学 地学生物					
6 限			教育 イノベーション 概論			

1 年次後期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限		日本型教育 システムにおける ICT活用方法				
3 限		日本における 教科の内容と 指導法(理科)		日本型教材の 開発と授業 デザイン(理科)		
4 限	ゼミ	TA		TA	国際比較 文化論	
5 限					学部生のゼミ	
6 限			データ分析の ための プログラミング			
7 限				先端技術・ データ活用演習		

1 年次 集中講義	日本型教育システムの諸相、国際協働教育実践演習
-----------	-------------------------

2 年次前期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限						
3 限	課題研究Ⅰ			自然科学 教育特論 (物理・化学分野)		現代社会の 動向と 教育協働Ⅱ
4 限				TA		
5 限						
6 限						

2 年次後期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限						
3 限						
4 限						
5 限						
6 限						

2 年次 集中講義	日本型教育システム開発実践演習
-----------	-----------------

国際協働教育コース

日本語教育支援高度化領域



学部卒院生

張 宇航

2年次

入学を決めたきっかけ

四年間で日本語教育に関する知識を学び、教育現場への見学を踏まえて、いろいろな経験を積みました。しかし、最後の一年で卒業論文を作成する際に、独自に資料を調べて、専門知識を学ばなければならませんでした。その時点で研究の楽しさを感じて、専門のことへさらに一歩踏み出したいと考え、大学院に進学しました。

入試対策

日本語教育に関する知識を復習する上で、大学歴年の過去問を手に入れて、どのような形の試験問題かを把握します。一方、教授の心を確実に掴むために、明確な研究目的、研究内容を持っている研究計画書が必要となります。そのために、早めに先生と相談し、研究計画書を書き始めた方が良く考えます。

入学して良かったこと

実習先で多くの外国ルーツを持っている子どもと出会えるので、直感的に彼らの要求を感じられます。そして、今後も教壇に立って実践する授業があるので、自分自身の専門能力を鍛えられて、良かったと思いました。

入学前に学んでおいて入学後に役に立ったこと

大学院に進学した後は研究が始まります。そのため、入学する前に、研究したいことをはっきり決めて、大量の論文を読めれば、きっと役に立つと考えます。

受験生へのメッセージ

専門知識を身につけることが何よりです。

1 年次前期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限		JSL カリキュラムの 理論と実践				
3 限						
4 限	日本語教育の 理論と実践					現代社会の 動向と 教育協働Ⅰ
5 限						
6 限			教育 イノベーション 概論			

1 年次後期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限		現代社会教育の 理論と実践		社会言語学 特論		
3 限	現代文教育の 理論と実践					
4 限				外国語と 日本語の 対照研究Ⅱ (中国語)	国際比較 文化論	
5 限						
6 限						

1 年次 集中講義	国際協働教育実践演習
-----------	------------

2 年次前期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限	日本近代文学 実践演習				日本語構造論	
3 限						現代社会の 動向と 教育協働Ⅱ
4 限		ヨーロッパ 言語文化 実践演習 B				
5 限			課題研究Ⅰ			
6 限						

2 年次後期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限						
3 限						
4 限						
5 限						
6 限						

2 年次 集中講義	日本語教育支援実践演習
-----------	-------------

教育
ファシリテーション
コース

コースの特徴

主として社会人を受け入れ、自らの知識・技能、経験を他者の知見と組み合わせ、教育現場の最適化に資する実践知を生み出すことができる人材を養成します。

「教育イノベーション開発領域」、「地域教育・芸術支援人材高度化領域」及び「健康・安全教育高度化領域」の3つの領域を設けます。

必修科目として「社会に開かれた教育課程の実践研究」、「学習支援特論」、「プロジェクト演習」を開講します。

天王寺キャンパス
夜間・土曜開講

募集人員(目安)：20人

コース代表教員からの
メッセージ

守本 晃 教授

教育ファシリテーションコースは、3つの領域をもつ夜間・土曜日開講の大学院です。教育工学、地域教育、音楽、美術、健康科学、安全教育、生活環境、スポーツといった多彩な専門性と豊かな実務経験を持つ人々が集い、各領域において専門的な知識やスキルを深く探求します。さらに、教育という視点、そして多様な人々との教育協働という視点を掛け合わせることで、新時代の学校改革を推進し、複雑化する教育課題の解決に貢献できる人材育成を目指しています。

人生100年時代を迎え、社会人が大学院で学び直し、互いに協力し合いながら研究に取り組むリカレント教育の重要性はますます高まっています。社会での豊富な経験や実践活動を通して見出した問題意識や研究テーマをお持ちの社会人の方々とともに、知的な探求を深めたいと考えています。また、学部を卒業してすぐに本コースに進学される方にとっても、多様な実務経験を持つ社会人院生との学びは、従来の大学院教育とは異なる刺激と新たな価値観をもたらすでしょう。異なる背景を持つ人々との交流を通して、視野を広げ、多角的な視点を獲得する貴重な経験となるはずです。

教育イノベーション開発領域

AI、ICT等先端技術を活用し、
教育課題を解決に導くことのできる人材を養成します。

- | | |
|-----|---|
| 特 徴 | ■ 今日の教育現場の動向やニーズを理解し、自らが有する知識・技能、経験と異分野の知見の組み合わせによる協働的、実践的な学びを展開します。
■ 先端技術を自在に駆使し、教育に関するデータを集積・分析しながら、各種教育課題に対して最適な解決策を提示するための知識・技能を身に付けます。 |
|-----|---|

- | | |
|------------|--|
| 主な
開講科目 | ■ 教育ポートフォリオとデータ
■ 人工知能概論
■ 先端技術の教育展開と教育データ分析演習 |
|------------|--|

- | | |
|-------------|---|
| 養成する
人材像 | ■ 先端技術分野の企業、教育委員会行政職など、専門的知識・技能、経験を生かして、教育現場の高度化に貢献する人材 |
|-------------|---|



地域教育・芸術支援人材高度化領域

学校や地域の教育課題の解決に寄与する人材や、音楽や美術の技術や
感性を教育分野に生かすことのできる人材を養成します。

- | | |
|-----|--|
| 特 徴 | ■ 地域学校協働や学習支援に関する理論的・実践的探究を通じて、学校や地域の教育課題を解決するための知識・技能を身に付けます。
■ 芸術表現に関する専門性を生かして、教材開発能力や事業企画力など教育現場に参画するための知識・技能を身に付けます。 |
|-----|--|

- | | |
|------------|--|
| 主な
開講科目 | ■ 地域教育とキャリア形成
■ 地域音楽教育支援研究、地域美術教育支援研究
■ 地域教育実践演習 |
|------------|--|

- | | |
|-------------|--|
| 養成する
人材像 | ■ 社会教育関係者、社会福祉士、民間教育事業者、芸術家、演奏家、教育や文化振興に関連する団体の職員など、専門的知識・技能、経験を生かして、教育現場の高度化に貢献する人材 |
|-------------|--|

健康・安全教育高度化領域

学校・家庭・地域の健康・安全の向上を担える人材や
スポーツ実践の課題を解決できる人材を養成します。

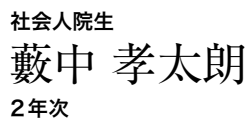
- | | |
|-----|--|
| 特 徴 | ■ 医療や保健、スポーツ、学校安全などの健康・安全分野に関する理論的・実践的探究を通じて、教育課題を解決するための知識・技能を身に付けます。
■ 多職種との協働による考察を通じて、健康・安全教育の課題解決に資する授業の企画や運営手法、教材開発手法など実務的な技能を身に付けます。
■ 児童生徒にスポーツの楽しさ、健康・安全な生活を気づかせ、豊かな人間性・社会性を育むことのできる人材を養成します。 |
|-----|--|

- | | | |
|------------|-----------------------|----------------------------|
| 主な
開講科目 | ■ 健康管理学特論
■ 住環境学特論 | ■ 安全教育学特論
■ スポーツ実践研究特論Ⅰ |
|------------|-----------------------|----------------------------|

- | | |
|-------------|---|
| 養成する
人材像 | ■ 看護師、理学療法士、保健師、管理栄養士など医療・保健、健康関係の専門職や、アスリート、スポーツ指導者など、専門的知識・技能、経験を生かして、教育現場の高度化に貢献する人材 |
|-------------|---|

教育ファシリテーションコース

教育イノベーション開発領域



教育支援事業に15年間携わってきましたが、これまで教育学を専攻したことはなく、ICT技術を活用した最新の教育実践や、教育学の理論的体系をあらためて学びたいと考えようになりました。そんな中、大阪市教育センターの移設のニュースをきっかけに、官学連携による最先端の研究拠点が天王寺区というアクセスの良い場所に設置されることを知り、入学を決意しました。また、平日夜間や土曜日を活用した授業や、長期履修制度にも対応している点も、社会人として安心して学び続けられるポイントでした。

過去問を入手し、ChatGPTを活用して論述練習を行った以外、特別な対策はしていません。ただし、私は一度大学院(法学)を修了しており、教育事業に長年携わってきた経験があったことが、入試対策上大きなアドバンテージになったと感じています。ストレートマスター(学部卒業後すぐの進学者)の皆さんには、教育関連の主要なトピックを一通り押さえ、時間制限付き・手書きによる論述練習に取り組むことをおすすめします。

先生方の専門分野が多様であり、また学生との距離が近いことが大きな魅力だと感じています。授業内容に直接関係しないことであっても、各先生方の専門に関連する質問であれば、丁寧かつ親身に対応していただけます。社会人の視点から見ると、この費用でこれほど多様な専門家に直接質問できる環境は非常に恵まれており、大きな価値があると実感しています。

研究計画を立てる際は、調査に必要な倫理審査のルールや申請にかかる期間を事前に調べておくことをおすすめします。想像以上に時間がかかるため、スケジュールが大幅に遅れることがあります。私自身、単位取得に向けた履修戦略は綿密に立てていましたが、研究は自己完結できるものだと思えず、貴重な時間を無駄にしてしまいました。自分の専攻分野における一般的な論文作成の手順をあらかじめ知っておくだけでも、研究が格段に進めやすくなると思います。

一緒に学べることを楽しみにしています！

1 年次後期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						
4限						
5限						
6限				ダイバーシティと 地域教育		
7限				先端技術・ データ活用演習		

2年次前期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						
4限						現代社会の 動向と 教育協働！
5限						
6限			教育 イノベーション 概論		課題研究Ⅰ	
7限						

2年次後期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1限						
2限						
3限						現代社会の 動向と 教育協働Ⅱ
4限						
5限						プロジェクト 演習B
6限					課題研究Ⅱ	
7限						



教育イノベーション開発領域	尾崎 拓郎	■ 情報教育学、教育学	望月 久稔	■ 知能情報学、情報学基礎理論
	高見 享佑	■ ICT 教育・データサイエンス		■ ウェブレット解析、ウェブレットを用いた信号処理
	CHEN LI	■ 教育情報工学		■ 教育学
	藤田 真依	■ 実解析		■ 情報教育学、教育学、教育方法学
地域教育・芸術支援人材 高度化領域	江藤 亮	■ ヴィジュアルデザイン	高橋 味央	■ 社会福祉学、子ども家庭福祉、教育福祉
	岡本 麻子	■ ピアノ演奏法		■ 声楽、声楽指導法
	北川 文雄	■ 作曲 ※		■ 生涯学習論、社会人学生論、大学開放論
	神代 修	■ 器楽(トランペット)、管弦楽、吹奏楽		■ 絵画
	五明 真	■ 立体造形		■ 器楽(フルート)、管弦楽
	高嶺 裕樹	■ 図書館情報学、図書館の自由		■ 音楽(ピアノ)
健康・安全教育高度化領域	生田 泰志	■ コーチング学、バイオメカニクス	西川 章江	■ 食生活学、食物学、食品学、食と生活科学
	碓田 智子	■ 住生活学、住まいと生活環境、住教育、まちづくり		■ スポーツ科学
	榎木 泰介	■ 運動生理・生化学、応用健康科学		■ 安全教育学、学校安全 ※
	後藤 健介	■ 自然災害科学、安全情報学、環境医学		■ コーチング学
	千住 真智子	■ 身体教育学、舞蹈学 ※		■ 内科学一般(心身医学含む)
	豊沢 純子	■ 安全行動学、社会心理学		■ コーチング学
	永井 由美子	■ 温熱生理学、衛生学・公衆衛生学		

教育ファシリテーションコース
地域教育・芸術支援人材高度化領域



学部卒院生
岡 優七
2年次

入学を決めたきっかけ

学部では美術表現を専攻していました。自分の表現を探り、作品発表などを続ける中で自分の表現と社会とのつながりについて、もっと考える時間がほしいと思ったことが進学のかっかけです。院進後は、作品制作や美術講師の仕事と並行しながら学ぶことができ、自身の望んでいた過ごし方ができているように思います。

入試対策

研究計画書を作成する前に、4年生までの自分自身の作品表現やそれに関連する考え方がどのように推移してきたかを見直しました。作品や表現に対する自分のスタンスを言語化してみると、自身の興味関心の傾向や問題意識が明らかになり、研究計画書作成や実技試験の参考になりました。

入学して良かったこと

他分野の方との交流の機会が多かったことです。在学生の多くが社会人院生の方であり、それぞれ違った分野での経験を持つ方と話せたのは貴重な経験でした。授業内で自分の表現について発表する機会も何度もあり、普段あまり関わらない分野の方からの反応をいただけるのはとても新鮮で面白く、自分の研究にも良い影響があったと思います。

入学前に学んでおいて入学後に役に立ったこと

自分の作品や表現に対する考え方について、言語化する練習はしておいてよかったです。作品作りをしていると疎かになりがちだったのですが、大学院の授業や研究で、何を発信するにしても「自分が普段何をしている人なのか」という主軸がなければ難しかったように思います。

受験生へのメッセージ

学部では出来ない学びや経験が得られる場所だと思います。応援しております。

1 年次前期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限						
3 限						
4 限						現代社会の動向と教育協働Ⅰ (隔週開講)、プロジェクト演習A (隔週開講)
5 限						
6 限		教育ポートフォリオとデータ	教育イノベーション概論			
7 限		社会に関わった教育課程の実践研究				

1 年次後期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限						
3 限						現代的 教育研究方法 演習
4 限						プロジェクト 演習B
5 限						
6 限				地域美術教育支援研究		
7 限			学習支援特論			

2 年次前期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限						
3 限						
4 限						
5 限						
6 限	地域教育実践演習			ビジュアルデザイン 高度化演習、 構想造形 高度化演習		課題研究Ⅰ
7 限						

2 年次後期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限						
3 限						
4 限						
5 限						
6 限						課題研究Ⅱ
7 限						

2 年次 集中講義	絵画表現高度化演習
-----------	-----------

教育ファシリテーションコース
健康・安全教育高度化領域



社会人院生
宇野 光世
2年次

入学を決めたきっかけ

現在、私は急性期病院の産婦人科混合病棟で助産師として勤務しています。勤務する病院で管理職となり、さらに幅広い知識や教育に特化した大学院で学びたいという思いが湧き出てきました。看護や助産の分野でしか経験がないため、自分自身の視野を広げたいと思い入学を決めました。また「人生100年時代」においてリカレント教育にも興味がありました。専門性が高く知識・技術もご経験豊富な先生方が多くおられ、社会の様々なフィールドで活躍・経験されている院生さんと一緒に学べるこちらの大学院を選択しました。

入試対策

過去の問題を閲覧したり、国内外の社会情勢を調べ小論文対策を行いました。また、大学院では研究が必要となるので、研究テーマを考えたり、研究計画書の書き方や先行研究を文献検索しまとめていました。

入学して良かったこと

社会人学生さんも多く、様々な経験をお持ちの方が多く在籍されています。この方々と共に授業を受け、グループワークからの学びは新鮮で多くの学びを得ています。同じコースや分野の院生同士で支え合うことも多いです。また、先生方がとても温かく優しくサポートをしてくれます。学生生活で困ったことはもちろん、社会人学生ということもあり、学業と仕事、体調の心配もしてくれます。院生や先生方に支えられ、修士課程の1年間を乗り越えることができました。感謝すると同時にこの大学に入学して良かったと日々感じています。

入学前に学んでおいて入学後に役に立ったこと

特に、自身の分野に関連する国内外の情報をリサーチしておく学びがさらに深くなると思います。

受験生へのメッセージ

応援しています。歴史を刻みましょう。

1 年次前期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限						
3 限						
4 限						現代社会の動向と教育協働Ⅰ (隔週開講)、プロジェクト演習A (隔週開講)
5 限						
6 限	食環境学特論		教育イノベーション概論	環境保健学特論		
7 限	住環境学特論	社会に関わった教育課程の実践研究		健康生理学特論		

1 年次後期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限						
3 限						
4 限						プロジェクト 演習B
5 限						
6 限	教育と福祉の協働		地域教育とキャリア形成	環境保健学特論演習		
7 限	住環境学特論演習		学習支援特論	健康生理学特論演習		

2 年次前期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限						
3 限						現代社会の動向と教育協働Ⅱ
4 限						
5 限						
6 限						課題研究Ⅰ
7 限						

2 年次後期 授業スケジュール						
	月	火	水	木	金	土
1 限						
2 限						
3 限						
4 限						
5 限						
6 限						課題研究Ⅱ
7 限						

説明会／学費・奨学金／
大学院教育学研究科(修士課程)修了生の進路

説明会スケジュール

教員によるコース説明や在学生による学生生活・入試対策を紹介します。オンラインで実施しますので、お気軽に参加ください。

令和7年6月29日(日)	令和7年12月14日(日)	※詳細は大学ウェブページに掲載します。
--------------	---------------	---------------------

入試日程等

	出願期間	入試日	合格発表
1次募集	令和7年 7月 22日(火)～令和7年 8月 1日(金)	令和7年 9月 6日(土)	令和7年 9月 12日(金)
2次募集	令和7年12月 25日(木)～令和8年1月 6日(火)	令和8年 2月 8日(日)	令和8年 2月 13日(金)

※定員の充足状況によって3次募集(入試日：令和8年2月28日(土))を実施する場合があります。

入学科・授業料

令和7年度入学	入学科	授業料(年額)
大学院	282,000 円	535,800 円
大学院(長期履修学生制度の適用者)	282,000 円	357,200 円

※上記金額は、令和7年度入学者の金額であり、令和8年度入学者については、変更される場合があります。

長期履修学生制度

標準修業年限(2年)で修了することが困難な方を対象に、修業年限を延長することにより計画的に教育課程を履修することができ、かつ、その間の授業料の年額の負担を軽減することができます。

長期履修学生としての申請に基づき審査を行い、許可された場合修業年限を3年とします。修学状況等の変動により、標準修業年限への短縮や、入学後(在学中)の長期履修の申請も可能ですが、この場合、1年次の所定期日までに申請を行い、翌年度からの適用となります。なお、本制度が適用された方は、留学など長期にわたって本学大学院を離れた場所での修学ができない場合があります。

申請資格

申請資格を有する方は、次のいずれかに該当する方です。

- ① 職業を有する方
- ② 育児、介護等の事情を有する方
- ③ その他研究科長が認めた方

授業料(年額)

大学が定めた
授業料年額

×

標準修業年限
(2年)

÷

最長履修期間
(3年)

授業料等免除制度

一般選考

経済的理由により入学科・授業料の納付が困難であり、かつ、成績優秀と認められる方を対象に、選考のうえ、入学科・授業料の全額または半額が免除あるいは徴収が猶予されます。

奨学金制度

学業成績が優秀で、経済的理由により学資の支弁が困難な方には《日本学生支援機構奨学金》または《一般奨学金》の制度があります。一般奨学金には、大きく分けて地方公共団体の奨学金と民間育英団体の奨学金とがあります。

(参考)令和7年度入学者 日本学生支援機構奨学金の貸与月額例

奨学金の種類	
第一種奨学金(無利子)	50,000 円・88,000 円のいずれかより選択
授業料後払い制度(無利子) 在学中は授業料を納付せず、 修了後の所得に応じて 後払いする制度	授業料相当額(年間535,800円が上限) ※日本学生支援機構から大学に直接支払われます。 生活費奨学金(20,000円・40,000円のいずれかより選択) ※生活費奨学金のみの貸与を受けることはできません。
第二種奨学金(有利子)	50,000 円・80,000 円・100,000 円・130,000 円・150,000 円のいずれかより選択

※上記金額は、令和7年度入学者の金額であり、令和8年度入学者については、変更される可能性があります。
※第一種奨学金(無利子)については、「特に優れた業績による返還免除制度」があります。

令和6年度修了生の進路

区分	教員		企業	公務員	進学	その他	合計
	大阪府内	大阪府外					
心理・教育支援コース	0	0	4	2	0	0	6
国際協働教育コース	0	0	19	2	0	6	27
教育ファシリテーションコース	2	0	16	1	0	6	25
合計	2	0	39	5	0	12	58

(人)

大学院教育学研究科(修士課程)について
よくある質問はコチラ

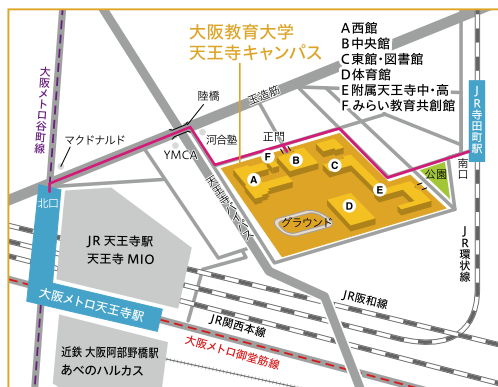
大阪教育大学 研究科 よくある質問



Access

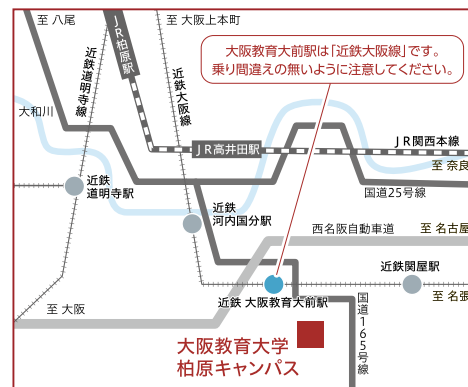


天王寺キャンパス



大阪市内中心地 ■ 天王寺駅から約600m
■ 寺田町駅から約350m

柏原キャンパス



■ 大阪上本町駅から
大阪教育大前駅まで近鉄電車で **23分**
■ JR大阪環状線鶴橋駅から
大阪教育大前駅までなら **19分**



国立大学法人
大阪教育大学

<https://osaka-kyoiku.ac.jp/>

大阪教育大学 学務部入試課

〒582-8582
大阪府柏原市旭ヶ丘 4-698-1
TEL 072-978-3323

入試情報は
こちらから

